

2024年11月1日

容器変更のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、微生物学的検査の嫌気性菌培養・同定検査で使用しております嫌気ポーター（容器No.60）について、容器販売元（テルモ株式会社）より、本容器の販売を中止する旨の連絡がございました。これに伴い、同等の性能を有する容器に変更させていただきます。

先生方には大変ご迷惑をお掛け致しますが、事情をご賢察の上、何卒ご了承の程よろしくお願い申し上げます。

敬白

記

【容器変更】

	新	旧
容器No.	60	同左
容器名	シードチューブ	嫌気ポーター
容器の保管方法	室温	同左
有効期間	製造後 6ヶ月	製造後 2年
内容物	寒天、塩化ナトリウム、リン酸塩等	寒天培地、ブドウ糖、CO2ガス充填
販売元	栄研化学株式会社	テルモ株式会社
容器画像		

※容器変更に伴う、受託要領の変更はございません。

【変更時期】2024年11月下旬より順次変更

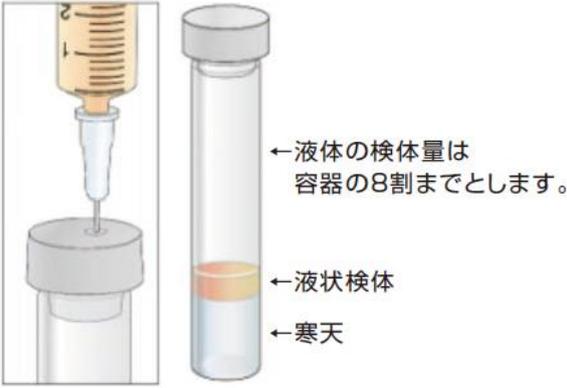
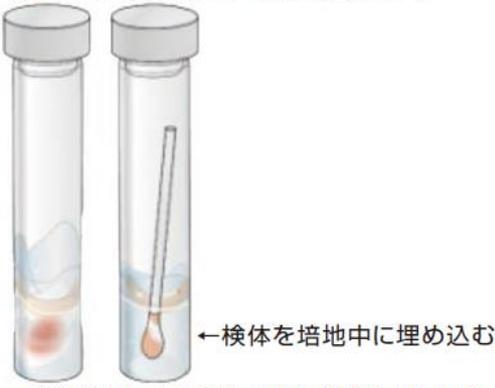
尚、詳細につきましては、営業担当者またはインフォメーションまでお問い合わせ下さい。

本社 〒710-0834 倉敷市笹沖 468 番地の 5

インフォメーション TEL(086)427-2323

ホームページ <http://www.oml-inc.jp>

【新容器の使用法】

液体検体(穿刺液、消化液等)	固形検体(膿、糞便、組織片等)
<p>① 穿刺部(ゴムキャップ上の小円)を消毒用アルコール綿等で消毒します。</p> <p>② 注射針を穿刺部に垂直に穿刺し、液体検体を注入します。</p> <p>③ チューブラベルを貼付し輸送してください。</p> <p>④ 検体は速やかに検査してください。 やむを得ず保存する場合は冷所保存してください。</p>	<p>① ゴムキャップを消毒用アルコール綿等で消毒します。</p> <p>② ゴムキャップを外し、固形検体を入れます。 検体は寒天の奥まで挿入してください。 ※綿棒は長さ7cmまで入ります。 それ以上のものは切断してください。</p> <p>③ ゴムキャップを速やかにしっかり閉めます。</p> <p>④ チューブラベルを貼付し輸送してください。</p> <p>⑤ やむを得ず保存する場合は冷所保存してください。</p>
<p>↓キャップは開けずに注射針で注入</p>  <p>←液体の検体量は 容器の8割までとします。</p> <p>←液状検体</p> <p>←寒天</p>	<p>例:ガーゼや滅菌綿棒で拭った検体(*)</p>  <p>←検体を培地中に埋め込む</p> <p>※酸素侵入による培地の着色機構はありません。</p>

- (*) 検体を採取したガーゼは、滅菌ハサミで容器に入る大きさにカットしてください。
ガーゼや滅菌綿棒で採取した検体が寒天の中に埋まるように入れてください。
寒天の中に入れることにより嫌気状態が維持され、嫌気性菌の死滅を防ぎ、培養検査での検出率の低下を防ぎます。

以上